

参考資料

独立行政法人国立印刷局

国立印刷局の概要

(1) 設 立 平成15年4月1日（明治4年創設）

(2) 主事務所 東京都港区虎ノ門

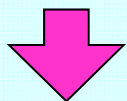
(3) 役職員数（平成25年4月1日現在）
・ 4,306名

(4) 主な業務

- 銀行券の製造
- 官報の編集・印刷・普及
- 旅券・国債証券・印紙・郵便切手等の製造・印刷

(5) 意義

- 財務大臣の定める銀行券製造計画に基づく安定的かつ確実な銀行券の製造
- 財務大臣、内閣総理大臣からの緊急要請への対応 等

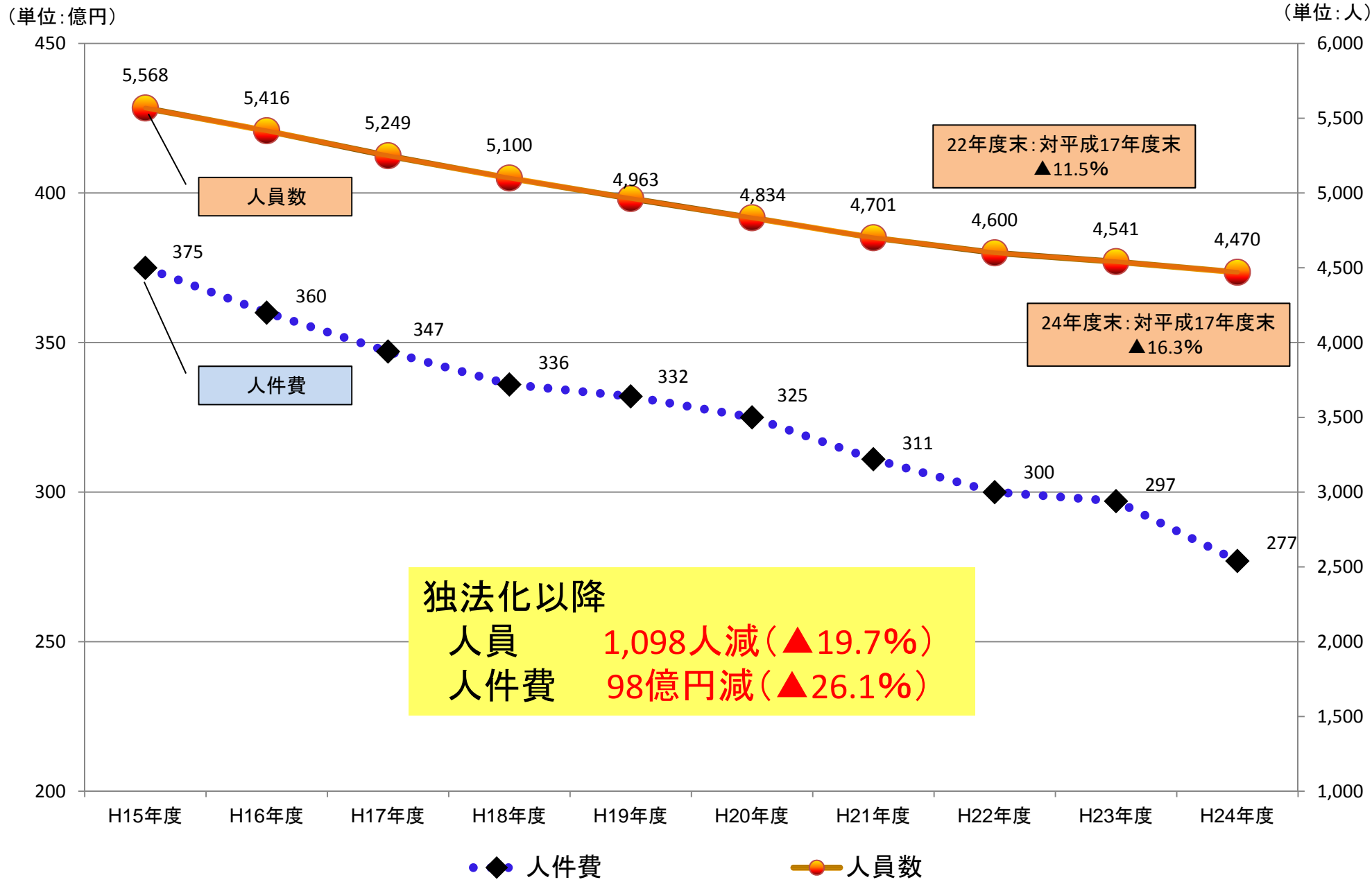


- ★国民経済にとって必要十分な量の銀行券を安定的かつ確実に製造
- ★高度な偽造防止技術の研究開発による極めて低い偽造発生率

国との密接な連携を図りつつ、「通貨に対する信頼の維持」を確保



国立印刷局の人員、人件費の推移

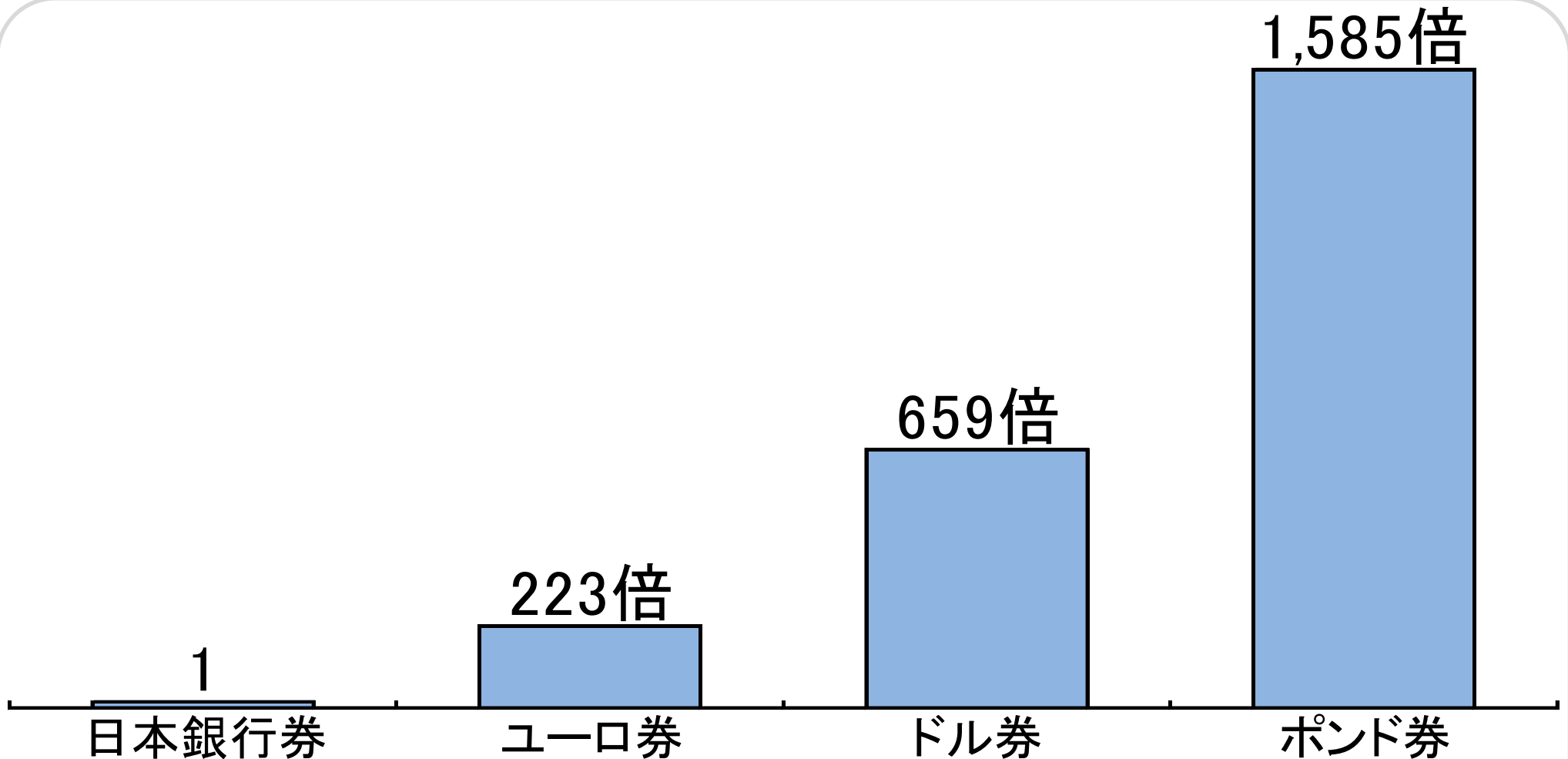


国庫納付実績

(単位:億円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度 (7月末まで)	合計
金銭納付	145	—	259	21	69	135	629
現物納付	—	—	987	1	1	35	1,024
合計	145	—	1,246	22	70	171	1,653

偽造紙幣発見枚数割合（日本銀行券を1とした場合）



（資料）各国財務省、中央銀行及び警察当局の公表資料等から作成

日本銀行券 流通量（2012年末：128.52億枚） 発見枚数（2012年：1,950枚）

ユーロ券 流通量（2012年末：156.87億枚） 発見枚数（2012年：531千枚）

ドル券 流通量（2012年末：330.00億枚） 発見枚数（非公表）

ポンド券 流通量（2012年末：29.90億枚） 発見枚数（2012年：719千枚）

※アメリカ財務省HPによると、ドル券の偽造券発生割合は1万枚に1枚の割合程度とされている。

日本銀行券の偽造防止技術(Ｅ一万円券)



① すき入れ



お札の表面の肖像と同じ「福沢諭吉」のすき入れが施されています。

② すき入れバーパターン



用紙に棒状のすき入れを施したもので、透かして見ると、3本の縦棒が見えます。

③ 潜像模様



お札を傾けると、表面には額面数字の「10000」が、裏面には「NIPPON」の文字が浮かび上がって見えます。

④ パールインキ



お札を傾けて見ると左右両端の余白部分にピンク色の光沢が見えます。

⑤ マイクロ文字



カラーコピー機などでは再現が困難な微小な文字で、「NIPPONGINKO」というマイクロ文字が印刷されています。

⑥ 特殊発光インキ



紫外線を当てると、表面の印章(日本銀行総裁印)や表裏面の地紋の一部が発光します。

⑦ 深凹版印刷



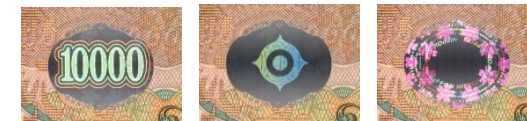
お札の図柄は、インキが高く盛り上がって印刷され、手で触るとザラザラした感じがあります。

⑧ 識別マーク



目の不自由な方が指で触って識別できるように、深凹版印刷でざらつきを作っています。

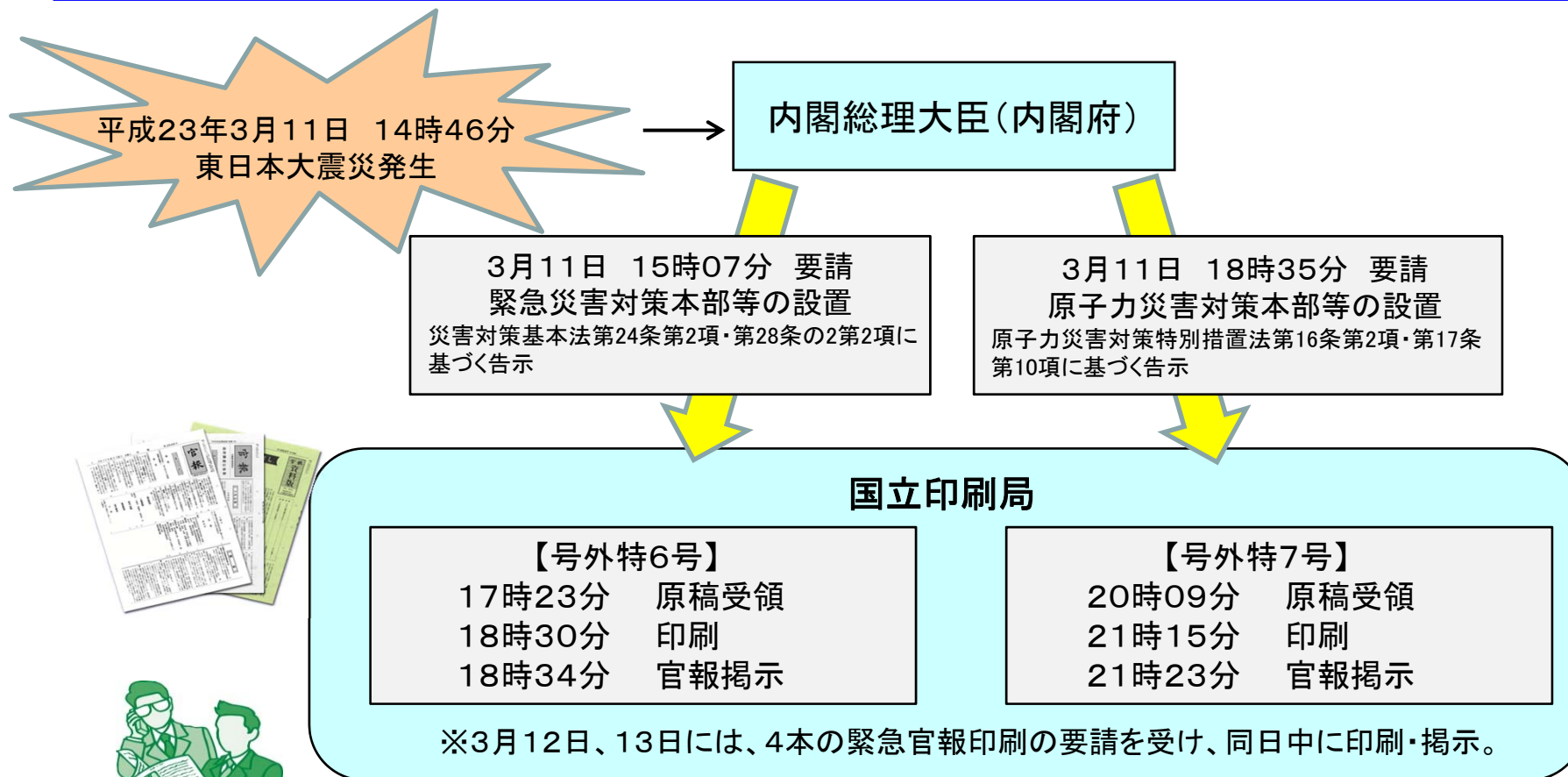
⑨ ホログラム



角度を変えることにより、額面数字の「10000」、日本銀行の「日」の文字をデザイン化したもの及び桜の画像が現れます。

緊急時対応（東日本大震災に係る緊急官報印刷）

内閣総理大臣から緊急に官報の印刷を要請されたときは、速やかにその要請を実施。
（独立行政法人国立印刷局法（平成11年法律第41号）第20条第2項及び第3項）



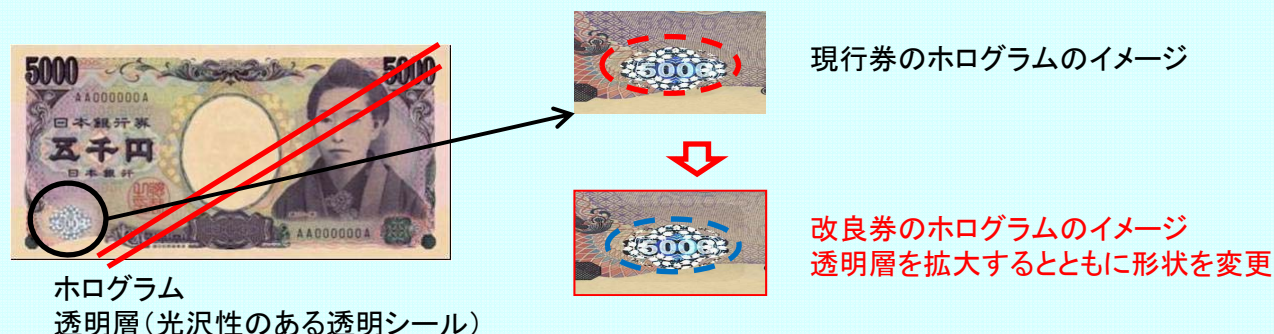
その他、平成18年10月13日に「特定船舶の入港の禁止に関する特別措置法」第3条第3項に基づく緊急官報の例あり。
消費者安全法等官報による告示を義務付けているものが多数ある。

日本銀行券の券種の識別性向上の取組み (財務省、日本銀行、独立行政法人国立印刷局) (平成25年4月26日付公表)

1. 早期実施に向けて着手する3つの具体的な取組み

○5千円券の改良

5千円券について、表面左下に貼付しているホログラムの透明層(光沢性のある透明シール)を拡大するとともに形状を変更。この改良は、ATM等の現金取扱機器への影響を最小限に抑えつつ、ホログラムの透明層の触感がその他の印刷面と異なることを利用して、券種の識別性を向上させる取組みを実施。【平成26年度前半を目途に順次発行開始予定】



○携帯電話に搭載可能な日本銀行券の券種識別アプリの開発・提供

国立印刷局が、現在発行されている日本銀行券4券種の券種識別機能をスマートフォンのアプリケーションとして開発し、これを、国民の皆様が無償で提供する予定。【本年中を目途に、配信開始予定】

○券種の識別機器の開発・情報提供

国立印刷局が、現在発行されている日本銀行券4券種の券種識別のための専用簡易機器のモデルを開発し、完成後は、当該モデルについて民間企業等に対し情報提供を行う予定。【本年夏頃完成予定】

2. 将来に向けた取組み

将来の日本銀行券改刷(様式の変更、時期未定)が、目の不自由な方々にとっての券種の識別性の大幅な向上につながるものとなるよう、関係者からの意見聴取、海外の取組状況の調査等、様々な観点から検討。

3. 「障害者基本計画」(平成25年9月27日閣議決定)

現在の日本銀行券が、障害者等全ての人にとってより使いやすいものとなるよう、5千円券の改良、携帯電話に搭載可能な券種識別アプリの開発・提供等を実施し、券種の識別性向上を図る。また、将来の日本銀行券改刷が、視覚障害者にとり券種の識別性の大幅な向上につながるものとなるよう、関係者からの意見聴取、海外の取組状況の調査等、様々な観点から検討を実施する。